

## 統合システムモデル 胸部と骨盤 (2018年日本開催)

### <目標および学習内容>

1. 患者の問題（痛みや安定性欠如、パフォーマンス不良、他の能力障害など）の根底にある原因（ドライバー）について統合システムモデルを用いてどのように進めるかを解説する
2. 課題に対し、患者が機能とパフォーマンスに最適な戦略をしているかどうか判断するための骨盤、股関節、胸部の鍵となる幾つかのテストと、複数の機能障害が見つかった場合最初に介入すべき「プライマリドライバー」どのように判断すべきか実習する
3. 骨盤、股関節、胸部が最適な機能を損なう原因かどうか見極めるために必要なクリニカルリーズニングのプロセスをディスカッションする
4. プライマリドライバー（胸部、骨盤、股関節）に対する関節系、神経系、筋膜系の臨床テストを実習する
5. プライマリドライバーの様々なシステムの機能障害に対し、規範的な治療プログラムを構築するためのクリニカルリーズニングをディスカッションする
6. 機能とパフォーマンスのより良い戦略を構築するために必要となる体幹や股関節の部分リリース、アライメント調整しつつ、動かす治療テクニックと動きのトレーニングを実習する

### <学習成果>

- ✓ 統合システムモデルの展開のあらましと、統合治療プランにおけるリリーステクニックの役割について理解する
- ✓ 胸部、股関節、骨盤の間で相互に影響し合う痛みや機能不全の主たるドライバーを明確に探し出すクリニカルリーズニングスキルを学ぶ
- ✓ プライマリドライバーを治療するための神経系および筋膜系の統合的なテクニックを学ぶ

### <コース受講にあたっての準備（全受講者必須）>

『骨盤帯』第4版（医歯薬出版）に本コースで学ぶ内容が述べられています。特に第7.8章は熟読しておいてください。

また、事前にオンラインコースの閲覧をしていただきます。講習会では、ISMの概要についてはこのオンラインコースをすでに学んでいるものとして進められます。また、受講者は復習用動画も閲覧可能となります。アクセスコードについての詳細は約1ヶ月前にPhysiolinkよりメールにてお知らせします。

臨床で、再発を繰り返すケースを経験したことはありませんか？限られたエビデンスのなかで、最も効果的アプローチを実施できているのか疑問を感じていませんか？臨床像を捉える中で、胸部、腰椎、骨盤のどこが重要なのか、また重要だとわかってても何をすればよいか、どこから治療を始めればよいか、それらをどう判断すべきなのでしょう？

ほぼすべての運動課題で「骨盤が機能的に重要である」という事を示す科学的なエビデンスは増えてきました。しかし、骨盤の機能が損なわれたことが患者の主な愁訴の原因なのか、単にあらゆる機能障害の結果生じたのか、どうやったらわかるのでしょうか？胸部と骨盤の関係が腰椎の力の伝達不良を引き起こしているということは、どうすればわかるのでしょうか？機能とパフォーマンスの回復は問題の根底に潜む原因を見極め、そこを治療する事によって成し遂げられます。あるケースでは、その原因が骨盤にあるかもしれませんし、他の部位が原因で骨盤に問題が生じていることもあります。胸部でも同様の事が起こります。どんなときに骨盤、胸部、腰椎のいずれかを治療し、あるいは他の部位を評価すべきなのでしょう？

本コースは、胸部、腰椎、骨盤、股関節領域間の機能的な相互関係と、能力障害と痛みに対する統合システムモデルを用いてそれぞれの患者の臨床像をどう理解し、解釈を進めるかを学ぶ内容となっています。

1. 問診から意味のある課題/テストを選択し、最短に評価を展開する方法とは？患者のストーリーにはすべて個性があり、したがってISMアプローチには機能障害や痛みのパターンに対応するプロトコルやレシピは存在しない。
2. どこが最重要か、つまり犯人すなわちプライマリドライバーはどこか、複数の部位で機能障害が見つかった場合、的を絞って介入すべき部位をどのように決めるか？股関節が原因で仙腸関節のコントロール不良となり、痛みを生じているのか（あるいは胸郭や足部の問題なのか）、それとも骨盤そのものに問題があるのか（仙腸関節が固い、骨盤底や腹横筋のコントロール不良—骨盤に起因する骨盤の問題）？
3. ハムストリングスや内転筋のオーバーユースが骨盤のコントロール不良を引き起こしているのか、もっと離れた他の部位の問題によって筋のインバランスが生じているのか？
4. どの時点で特定のシステムのテスト（関節系、神経系、筋膜系、内臓系、生理的要素など）を選択し原因を特定すべきか、様々な身体領域間あるいは領域内の影響を判断すべきか…つまり「適切な時に適切なことをする」ことを学ぶ

本コースでは、複数の所見を統合したクリニカルリーズニング、視覚及び徒手の評価、治療技術を多くの実技とディスカッションに時間を割きます。本コース修了時には、体幹の機能（第3胸部リングから股関節）を評価し、骨盤および胸部の機能に影響する様々な機能障害について理解する新たなスキルが身に付いているでしょう。胸部の分節運動、骨盤、股関節の運動性やコントロール能力を分析するスキルも学びます。ISMアプローチの原理はどのような患者にも当てはまることから、あらゆる患者に対して（産後の女性からハイレベルなアスリートまで）機能とパフォーマンスを回復するための多面的な治療プログラムをデザインする方法（患者教育、徒手療法、神経筋リリース、動きのトレーニングを含む）を理解できるようになるでしょう。